

# 学びの風便り

リーディングスクール通信59 R8.2.17(火)

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



## 学びの改革のあゆみ 清水中学校・中山小学校

### 清水中学校 ～「目的と手段」を繰り返し意識化！校内研修の歩み～

「自律を育む学校」の具現に向けて、全校研究テーマに「子どもの自己決定を促す授業づくり」を掲げて授業改善・充実に取り組んできた先生方の立ち止まりや歩みを紹介します。

#### 「目的と手段」をより一層意識する契機（5月）

同時共同編集機能を活用した授業づくりが日常化している清水中学校。他者との対話や協働の質的向上をさらに図りたいと願い、東原義訓先生（学校DX戦略アドバイザー・信州大学名誉教授）を講師とした校内研修を実施しました。この研修を通して先生方の中に、「ICTを使っているが、学びが深まっていないのではないか」「目的（目指す学校像「自律を育む学校」）を再確認する必要がある」という立ち止まりが生まれました。



#### 『自律』とは、一人でやり切ることだけではないの共有（7月）

上記の2カ月後、目指す学校像に謳われている『自律』について、生徒の姿を通して語り合う校内研修が実施されました。清水中学校の教育実践について、岩川直樹先生（埼玉大学教授・信濃教育会教育研究所長）は「『自律』は、個人の力量形成という狭義ではなく、相互支援や対話関係という広義で考えたい。支え・支えられる応答の連鎖があってこそ、いつ支え・いつ支えてもらうかの判断となる。そして、その判断を相互に尊重するあたたかな関係性の中で、一人ひとりが成長していく。」と意味づけしてくださいました。

この校内研修で大切にされた「『自律』とは、一人でやり切ることだけではない」という観は、10月の学習オリエンテーションで全校生徒とも共有されました。清水中学校の強みの一つは、目指す学校像を生徒と先生で共有している点にあります。

#### 支え合いの中で、確かに育まれている『自律』（11月）



『自律』を育む日常の授業改善・充実が進むなか、国語・数学・社会・音楽の公開授業が行われました。生徒は、リアルタイムで自分と友達の考えの共通点と相違点を参照しながら、必要に応じて自分が求める相手の席に行き対話。一人でやりきることだけではない、支え合いのあたたかさやゆたかさが感じられる授業でした。

本単元で初めて Canva のホワイトボード機能を用いた授業者の先生は、「ちょっとびっくりしている。今までの紙の学習カードでは見られない変容がある」とふり返っていました。講師の東原先生からは、単なる発表や他

者参照にとどまらない同時共同編集機能活用による対話の深まりを価値づけていただきました。「他者との関わりの中で思考は循環する」ことの価値が共有され、相互支援や対話関係を媒介する手段としてICTを活用し、支え合いの中で自律を育む授業づくりへの機運が高まりました。

これからも子どもの自己決定を促す授業改善・充実を通して、「自律を育む学校」づくりが進んでいくことが期待されます。

# 中山小学校 先生が学びを楽しめば、子どもはもっと輝く ～「中山っ子フェス」で見た、みんなで創る探究のカたち～

学びへの「誇り」があふれた日 ～中山っ子フェス～



12月4日、中山小学校が熱気に包まれました。全校児童が「探究の学び」の成果を表現する「中山っ子フェス」です。4年生の演劇「泉小太郎」に始まり、各教室では1年生から6年生までがそれぞれの「学びの足跡」を披露しました。1年生は自作の「お祭りの遊び道具」について、「なぜこれを作ったのか」「どんな工夫をしたのか」という学びの足跡を力強く語り、6年生は縄文時代の石器や勾玉について、実物や資料を駆使しながら来場者と深い対話を繰り返しました。自分

の学びに「誇り」を持ち、目を輝かせて語る子どもたち。参加者（児童・保護者・地域の方）からの温かいフィードバックが、子どもたちの学びをさらに豊かなものにしてくれました。

## ■先生も「探究」を楽しんできた！「職員研修」の歩み

子どもたちのこのような生き生きとした姿は、実は先生たちの「学び合う姿の写し鏡」でもあります。中山小ではこの1年間、職員研修の中で、先生たちが対話を楽しみながら、一步一步歩みを進めてきました。その歩みの一部を紹介します。

### 「まずは自分たちが楽しむ」からスタート（8月）

先生たちがおススメのレクを持ち寄り、全力で遊ぶ研修を行いました。笑い声に包まれたこの時間が、学級での「関係づくり」の大切さを再確認する土台となりました。このように、折々の機会に培われている心理的安全性が、中山小の先生たちの深い対話の基盤となっています。



### 「ビジョン」をみんなで共有（9月）

フェスに向けた本格始動は「ビジョンの共有」から。「フィッシュボウル（金魚鉢）」という手法を用い、去年のフェスを経験した先生たちが語る様子を未経験の先生が観察し、その後交代して思いを交流しました。新任の先生も経験した先生も、立場の違いを超えて「どんなフェスにしたいか」という熱い思いを一つにしました。

### 「支え方」を具体的に描く（11月）

本番1か月前には、他校（風越学園）の映像から学びの良さを分析。「思いを込めて歩みを語る子」という具体的なゴールイメージを描き、そのために必要な支援として「どんなフィードバックが子どもの学びを深めるか」を話し合いました。研究部の先生たちが主体となって企画したこの研修が、フェスでの具体的な支援につながりました。これら一連の研修を、研究部の先生たちが主体的に企画・運営しているのも中山小の特色です。

## ■「ともに学ぶ」喜びが、学校のエンジン



12月初旬には公開研修会も開催され、中山小の先生たちがファシリテーター（進行役）となって、他校から研修に参加された先生たちを対話の渦に巻き込みました。日頃から培ってきた「語り合い、学び合う力」が、中山小の大きな底力となっていることを改めて実感する一日となりました。

「先生たちが、ともに対話し学ぶことを心から楽しんでいる」この機運こそが、中山小学校の推進力の源泉です。先生が学びを楽しむから、子どもも学びを楽しむ。「みんなで創る学校」を目指して進む中山小の歩みは、これからも子どもたちの豊かな「探究」を支え続けます。